

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370200

研究課題名(和文) 朝鮮半島における植民地都市のハイブリッド(hybrid)性

研究課題名(英文) The Hybrid Nature of Colonial Cities on the Korean Peninsula

研究代表者

朴 美貞 (PARK, Mijeoung)

国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：50589992

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：朝鮮半島における植民地都市のハイブリッド(hybrid)性を主に非文字資料を中心に分析検証を行った。国内外における非文字資料の所蔵先やその現状を把握し、学術的活用をめぐる議論の場を設けた。その成果は、『日本帝国の表象 - 生成・記憶・遺産』えにし書房、2016)にまとめた。

一方、済州大学海洋科学研究所と連携して学融合をめぐる国際シンポジウムを企画し、東アジアにおける学術的課題を共有した。現地調査と共に済州道におけるハイブリッド性の内実を確認した。発表者の論稿は韓国語での刊行を進め、さらなる議論を進めていく予定である。

研究成果の概要(英文)：Analysis inspection was performed focusing on Audiovisual Materials mainly with explication of the hybrid nature of the colony city in Korean Peninsula. Domestic and abroad, a possession destination and its current state of Audiovisual Materials which can be put were grasped and a place by the argument concerning academic utilization was established. The outcome ("Representation of a Japanese empire- Production of a colony imagery, Memory in the city and Utilization of a legacy " Enishi shobo, 2016) was gathered by the 3 chapter composition.

On the other hand, the international symposium about science fusion to cooperate with Marine Science Institute, Jeju National University was planned and an academic problem in East Asia was shared. The truth of a hybrid in Jeju as well as the field survey were confirmed. A Result of a research report is planning to advance publication in Korean and advance further argument.

研究分野：芸術学

キーワード：植民地都市 ハイブリッド性 朝鮮表象 非文字資料 学融合 朝鮮写真絵葉書 済州道 朝鮮工芸

1. 研究開始当初の背景

(1) 平成 23-24 年度に科学研究助成事業による挑戦的萌芽研究「朝鮮博覧会と京城の空間形成」を行った。その成果の中で、日本における「文化住宅」の受容が朝鮮に移植される際に京城の都市空間における異文化混合の特質を明らかにした。

(2) 朝鮮半島における日本人居留地の発展が果たした役割の重要性を認識し、その分析研究の方法論としては、都市計画史、建築史、経済史、物産史、伝統工芸研究、物流機構研究、表象文化論、メディア論等々の諸分野におけるインターカルチャー的、総合的研究視点の必要を認識した。その分析・検証の際に用いられた絵葉書、絵図、地図、植民地旅行案内記等々の非文字資料に関する研究的価値を認識した。今後、日本と近隣のアジア諸国における植民地遺産をめぐる視点のズレを解明する貴重な資料であり、その学術的有効性が高まっている。

2. 研究の目的

(1) 朝鮮半島における植民地都市のハイブリッド (hybrid) 性を解明し、東アジアにおける「文明」という軸を介した 20 世紀初頭の国際秩序を捉えなおすことを目的としている。なかでも日本の介入によって展開された博覧会事業を中心に、その開催地の都市空間形成と結びつけて調査・分析する。

(2) 植民地時代に形成された都市空間に残されている旧日本建築物をはじめ制度、言語、思想等々の植民地的遺産は今日の韓国社会でどのように表象されたのか。その中でもとりわけ、植民地的諸現象が「反日」という政治テーゼをめくっていかに内在化されたのかを分析し、その考察を通して、東アジアにおける国際秩序に未来志向の具体的提言を投げかけることが目的であった。

3. 研究の方法

(1) 国内外における朝鮮関連の非文字資料の現状や所蔵先における資料の内訳などを大学や博物館、美術館、資料館を中心に訪問調査を行った。その調査状況を「非文字資料」に関するコレクターと研究者を中心とした「絵葉書研究会」の場で共有した。ソウルの研究者を迎え、日本国内の関係者とともに、植民地都市のハイブリッド性に関する相互議論の場を設け、一次資料の収集や画像データの学術的将来に関する議論をも深めた。

(2) ソウルの漢陽大学校主催の非文字資料をめぐる東アジアの表象をめぐる国際シンポジウムや、EAJS 会議に参加し、発表とともに非文字資料の研究状況を把握し、今後の研究協力を話し合った。済州大学校と連携して、東アジアの学術的現状を把握し、「文理統合」の有効性を探る国際シンポジウムを行い、現地調査とともに植民地都市のハイブリッド性に関する調査分析を行った。

4. 研究成果

(1) 非文字資料をめぐる研究調査関連としては「アジアの記憶～植民地、遺産、見えるものと見えないものの境界」というテーマで日韓の研究者・コレクターによるミニシンポジウムを行った。(2014 年 2 月 9 日、国際日本文化研究センター、第 3 共同研究室)。本シンポジウムでは、植民地都市に残された建築物をめぐる制度、言語、思想等々を含むハイブリッド性に関する議論を行った。それらが植民地遺産として今日の韓国社会もしくは台湾、満州などの旧植民地エリアでどのように表象されてきたのか。東アジアにおける古都であった「京都・京城・北京」を中心に、20 世紀初頭の東アジアにおける植民地都市のハイブリッド性に関する分析検証を行った。

(2) 済州大学校海洋科学研究所と連携して「学融合(文理統合)」の有効性を探る日韓の国際シンポジウム(International Meeting on Say about "Technology and Value of Brand" Oct15-Oct17, 2015, Jeju, Korea) を企画し、東アジアにおける学問の現状に関する問題と課題意識を共有した。本シンポジウムの際には、日本における先駆研究報告書(『エネルギーを考える：学融合と拡散』作品社、2013)の韓国語(『Discusses about Energy: Fusion and Diffusion of Science』民俗苑、2014)への編訳刊行を行い、本シンポジウム会場で問題意識を共有した。本シンポジウム期間中には、済州道の資源、自然、文化、行政などの現地見学調査を行い、済州道におけるハイブリッド性に関する調査分析を行った。

(3) 第 14 回 EAJS 国際会議での「ポストカード」パネルに参加し、本研究課題における非文字資料の研究動向を始め、日本で生産された朝鮮写真絵葉書に関する研究報告を行った。本会議では、近代郵便制度の始まりとそれによる写真絵葉書の生産とその流通をめぐる東西の様子を分かち合い、今後の研究交流への議論を深めた。

(4) 植民地都市と「コリアンディアスポラ性」に関する調査の一例として画家李仲燮の作品の「ニセ」訴訟とその真偽をめぐる関係者へのインタビューを行い、調査報告を短い文章でまとめた。

(5) 朝鮮工芸の近代化における日本の介入をめぐる研究調査として田辺孝次の研究ノートや日記、関連資料の分析検証を行い、論文報告を進めた。

(6) 上記(1)(3)の研究報告に関しては、日本語と韓国語での活字化を進め、現在日本語は編集(再校確認中)を進めている。

(7) 上記(2)の成果として研究報告者の

論稿を韓国語による編集作業を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

朴美貞、レンズが生み出す朝鮮という他者、日本帝国の表象 生成・記憶・遺産(仮) 2016、頁未確定(編集中)

朴美貞、金天洙、植民地都市京城のハイブリッド性 龍山という橋頭堡、日本帝国の表象 生成・記憶・遺産(仮) 2016、頁未確定(編集中)

朴美貞、田辺孝次と朝鮮美術工芸、鹿島美術研究、第33号、2016、頁未確定(編集中)

朴美貞、東アジアの動向 学術 歴史を振り返る「孫基禎のマイウェイ 1936年ベルリンオリンピックにかけた夢」KOREA TODAY、463巻、2015、8-11

朴美貞、東アジアの動向 学術 東アジアの未来を模索する「東アジア日本語教育・日本文化研究学会」KOREA TODAY、462巻、2015、14-17

朴美貞、東アジアの動向 学術 済州大学校海洋科学研究所国際シンポジウム「ブランドの技術と価値」KOREA TODAY、461巻、2014、4-7

朴美貞、植民地朝鮮の表象 植民地の学習と教育のテキストとしての非文字資料、漢陽大学校東アジア文化研究、54集、2013、139-172

[学会発表](計8件)

朴美貞、近世日本列島沿岸の捕鯨業における産官連携、Marine Science Institute, Jeju National University “I HAVE” Brand Marketing Agency, 済州島グランドホテル、2015年10月15日 17日、(韓国、済州市)

朴美貞、李仲燮とディアスポラ ニセ訴訟の真偽、国際日本文化研究センター共同研究会「21世紀10年代日本の軌道修正」2015年4月17日、国際日本文化研究センター、(京都府、京都市)

朴美貞、楽浪の発見とアジア主義、漢陽大学校東アジア文化研究所 2015年国際学術大会「グローバル時代と東アジア文化の表象」2015、2月6日 7日、漢陽大学校人文科学部205号(韓国、ソウル市)

朴美貞、Representations of Colonial Korea - Producing Colonial knowledge

with Audiovisual Materials as ‘Text’、14th EAJIS International Conference : PANEL 「Picture Postcards as Important Media for the Study of Japan I: Imagi(n)ing History、2014年8月27日 30日、Faculty of Arts、in University of Ljubljana (スロベニア、リュブリャナ市)

朴美貞、朝鮮半島沿岸における海の産物をめぐるブランディング、International Meeting on Say about “Technology and Value of Brand”、2014年5月29日 31日、済州大学校(韓国、済州市)

朴美貞、写し移される植民地イメージ、共同研究会「うつしとうつわ〜偽物・海賊・植民地市場」2014年3月1日、京都大学こころの未来研究センター225号会議室(京都府、京都市)

朴美貞、植民地朝鮮と「水産」博覧会、日文研共同研究会「万国博覧会と人間の歴史-アジアを中心に」2014年2月22日、国際日本文化研究センター第5共同研究室(京都府、京都市)

朴美貞、植民地朝鮮の表象 朝鮮写真絵葉書と官展入選作にみるイメージの相関性、2014年2月20日、国際日本文化研究センターセミナー室1(京都府、京都市)

[図書](計4件)

朴美貞、長谷川怜、えにし書房、日本帝国の表象 生成・記憶・遺産(仮) 2016、頁未確定(編集中)

朴美貞、金子務、鈴木貞美、民俗苑、Discusses about Energy : Fusion and Diffusion of Science、2014、323

朴美貞、日文研叢書第52集、帝国支配と朝鮮表象 朝鮮写真絵葉書と帝展入選作にみる植民地イメージの伝播、2014、230

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朴 美貞 (PARK, Mijeoung)

国際日本文化研究センター 研究部 プロ

ジェクト研究員

研究者番号：50589992

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：